

共創先導プロジェクト（共創促進研究）
日本関連在外資料調査研究
「ハワイにおける日系社会資料に関する資料調査と社会調査の融合的研究」基本計画

令和4年4月1日
人間文化研究機構

【プロジェクトの概要等】

① プロジェクトの概要

本プロジェクトは、第3期中期目標中期計画で推進された「日本関連在外資料の調査研究」を発展的に継承するものである。第3期プロジェクトでは、北米に渡った日本人に着目し、言語史・社会史・生活史を基点としながら、北米日系移民史をめぐるマスターナラティブでは十分扱ってこなかった領域の析出を志向した調査研究を実施した。本プロジェクトで扱う近現代史資料、とりわけ20世紀の資料は、その数が膨大である上、個人や地域・民間で所蔵されている場合は、その管理・運用体制が構築されていないものも多い。しかも日本語で書かれた在外移民資料の場合、世代交代をくり返すたびに日本語を理解できる者が減少するため、国内に所在する資料以上に廃棄の危険が高くなる。

このような状況を踏まえ、本プロジェクトにおいては次の2つの作業に取り組む。

- (1) 第3期プロジェクトにおいて整備をはじめた音声資料目録データベースをさらに充実させる。ハワイの大学・博物館等、アクセスが比較的容易な所蔵機関の音声データは概ね入手している。だが、それらの一部は複製であり、オリジナルが個人・民間など、資料管理があまり十分に行われていない主体によって所蔵されている場合もある。本プロジェクトでは、音声資料のオリジナルを所蔵する主体を対象とした資料調査を行い、データベースを充実させる。
- (2) 近現代史資料の特性と、個人・地域・民間などで所有されている資料の今後を踏まえたとき、多様な主体によって保有されている資料調査が急務である。そうした主体へのアプローチとして本プロジェクトでは、①所蔵資料の概要、②資料管理の現状と将来の見通し、③資料を所蔵することになった経緯や地域社会・関係者との関わりに関する調査を行う。これにより、ハワイにおける民間レベルの「歴史実践」を把握しつつ、資料の概要を把握する。その上で、先方の受け入れ可能性、資料の量、プロジェクト側の予算と人員を突き合わせながら、目録を作成すべき対象を選定して、資料目録を作成する。

本プロジェクトでは、調査対象の重点を、オアフ島とハワイ島の個人・地域・民間の資料所蔵者、両島以外のマウイ島・カウアイ島に所在する資料とする。なお、必要に応じて日系人以外のエスニックグループ（中国、ポルトガル、フィリピンなど）に関わる資料、およびその所蔵主体も射程に入れる。

このほか、第3期で実施したプロジェクト成果の現地における発信と、ハワイの研究者や学生等との研究交流・情報収集を目的として、ハワイにおける企画展示（ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館他）を実施するとともに、講演会の開催、教育プログラムを行う。

② プロジェクトの統括、運営体制

本プロジェクトは、これらを実施するために、次の4つの班を設ける。

1. 資料班：資料調査を担い、その成果をとりまとめる。
2. 地域研究班：資料を支える地域社会の状況を調査し、資料状況とともにまとめる。
3. 言語研究班：言語学に即した資料の分析を行い、研究成果をまとめる。
4. 歴史研究班：ハワイへの移民史の再検討・調査を行い、研究成果をまとめる。

以上の4班のうち、プロジェクトの核になるのは「1 資料班」と「2 地域研究班」である。そして、「3 言語研究班」「4 歴史研究班」は、資料調査のなかで発掘した資料の評価に資する研究を行う。

③ 期待される学術的研究成果とその学術的・社会的意義

本プロジェクトの学術的研究成果の学術的意義は次の4点にまとめられる。

(1) グローバルな視点に基づいたハワイ研究の実践

ハワイ社会の歴史は、様々な地域からの人の往来によって形成されてきた。そのため、ハワイの言語、社会、歴史は、日本とハワイの関係を越えて、多様な関係性のなかで捉え直す。言語であれば、環太平洋・太平洋域における言語交流の中核としてのハワイという視点、歴史であれば、日本から見たハワイ移民だけではなく、アメリカ、太平洋諸地域、東アジア、オセアニア、ヨーロッパから見たハワイという視点で、よりグローバルな視点で調査研究を実施する。

(2) 近現代資料の評価体系の構築を志向した資料調査と研究情報基盤の形成

資料の評価づけも、その対象が多様であるがゆえに、単なる悉皆的な資料調査では限界がある。本プロジェクトでは多様性・柔軟性を持たせた資料評価を行い、適切に選定された資料を用いた調査研究を実施し、研究に資する情報基盤を構築する。

(3) 資料目録データベースの構築と公開

(2)で形成された研究情報基盤を「ハワイにおける日本移民資料目録データベース」として構築する。資料目録データベースを公開することにより、国内外の研究者にとっての共同利用性を高めることができる。

(4) 言語学、歴史学のアプローチによるハワイ研究の推進

本プロジェクトで収集・整備された資料を活用した成果を研究論文・研究書にまとめる。グローバルな人の動きを踏まえた上で、言語学的研究としては、ハワイの日本語に生じた方言接触・言語接触による変化に関する記述、歴史研究としては、これまで記述が十分できていないマウイ島・カウアイ島における生活史に関する記述の精緻化をそれぞれ行う。

次に、上記の学術的研究成果が果たす社会的意義は次の2点にまとめられる。

(1) ハワイの近現代史に対する新たな知見の提供を行うこと

ハワイをめぐって、移民を軸にして、エスニック・グループを横断して歴史を再構築することで、ハワイの近現代史に関する新たな認識を示すことができる。これは、単にハワイの歴史についての新たな理解を提示するのみならず、多文化社会の形成過程を、多くの日本人にとって比較的なじみのあるハワイという場に即して示すことで、(2)の意義を構成する前提を作ることになる。

(2) 多様化が進む日本社会の将来的課題を考える上での示唆が得られること

ハワイ社会の多様性の形成過程を把握することにより、現在、そして今後の日本社会が抱える多様性をめぐる問題に取り組む上での示唆が得られることが見込まれる。ハワイで生じてきた

人の移動とそれによる多言語化，多民族化による社会変容のプロセスは，日本社会と比べるとその期間も長く，そこで生じた問題も多様である。それらをグローバルな視点で調査研究を行うことで得られる知見は，日本社会の課題を検討する上では必要な視点を含むと考えられる。

④ 研究成果の発信（調査地での発信等を含む）、共同利用及び国際化への貢献

移民に関わる研究は，そもそも国際的な視点を持って取り組まれるものである。その意味では，ほかの多くの研究課題と同様の意味での「日本研究の国際化」ということにはならない。その前提に立った上で，少し異なる意味での，日本を起点とする移民研究の「国際化」への貢献が想定される。

日本における言語（日本語）研究，および移民研究は，日本から他地域（本プロジェクトでいえばハワイ）に渡った人々・言語を捉えるという，二地域間の関係で捉えられがちであった。こうした事情は，ハワイにおいても似たところがあり，日本，中国，フィリピンといった，エスニックグループの出自との関係で把握しようとする傾向がいまなお強い。こうした把握の仕方については，グローバルヒストリーという問題提起のなかで，克服が試みられているものの，依然としてその途上にある。本プロジェクトにおいては，広い意味での生活史の具体性のなかで，他のエスニックグループをも射程に収めて資料調査を進めることで，研究の視点の複数化を行うことを目指している。研究成果は以下に示す形で発信し，共同利用への貢献を目指す。

- (1) 「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」を公開し，本プロジェクトで収集・整備した日系移民資料情報を発信する。一次資料は原則として現地機関（博物館，資料館等）で管理し，本プロジェクトは，資料に関する情報を集約・発信を行う。資料目録データベースを提供することで，共同利用性を高めることが可能となる。これにより，資料に関心をもつ研究者，地域社会の人たちが増加し，現地機関の利用者が増えることが期待できる。
- (2) 国外・国内の協力機関からの情報発信を行う。第3期プロジェクトにおいて，国立国会図書館憲政資料室所蔵の移民関連資料に関しては，国立国会図書館のウェブサイトの「リサーチナビ」にて情報を公開し，国会図書館の利用者に直接的に利用できるようにした。本プロジェクトでは，このような協力機関の強みを利用した情報発信を行う。

研究発表会を対面形式・オンライン形式を並行させて開催し，より広範囲の地域からの参加者を対象とする。また，研究発表会を収録し，YouTube等で発信を行うことにより，普及を図る。この他，国内外の関連研究会，学会との共催による研究発表会を計画する。研究書の刊行をはじめとし，学会誌への投稿を積極的に行う。本プロジェクトで発信する研究成果を通じて，移民資料を学際的に利用することの意義を広める。

⑤ 達成目標

本プロジェクトによる達成目標は次に示す4つである。

- (1) 「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の整備・公開
- (2) 日系移民史，日本語教育史等に関する企画展示の実施
- (3) 移民資料を活用した研究成果（研究論文，研究書）の発信
- (4) 若手研究者を対象にした研究成果の普及，教育プログラムの実施

⑥ 6年間のロードマップ

※ 主要な研究成果の発信（国際会議、成果物等）を中心に記載

年度	取組内容
令和4年度	「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の整備 研究集会の開催（1回） 資料整備に関わるプログラムの実施（1回） 資料調査と社会調査の実施（1地点）
令和5年度	「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の拡充 資料整備に関わるプログラムの実施（1回） 資料調査と社会調査の実施（1地点） 企画展示の実施 研究集会の開催（2回） 移民資料を活用した研究書の刊行
令和6年度	「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の拡充 資料整備に関わるプログラムの実施（1回） 資料調査と社会調査の実施（1地点） 研究集会の開催（2回） シンポジウムの開催
令和7年度	「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の拡充 資料整備に関わるプログラムの実施（1回） 資料調査と社会調査の実施（1地点） 研究集会の開催（2回） シンポジウムを基にした研究論文集の刊行
令和8年度	「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の拡充 資料整備に関わるプログラムの実施（1回） 資料調査と社会調査の実施（1地点） 研究集会の開催（2回）
令和9年度	「ハワイにおける日系移民資料目録データベース」の完成 資料整備に関わるプログラムの実施（1回） 資料調査と社会調査の実施（1地点） 研究集会の開催（2回） 研究成果を基にした研究書の刊行